



E PLURIBUS UNUM エ プルリブス ウヌム

MLC 会長 平田 潔

昨年、スペインのマドリードで開かれた世界大会でアジア地区（インド、韓国、日本）が北アメリカ地区から独立したことは既報の通りです。一年が過ぎましたが、特段、私たちの信仰に大きな変化が起きたわけではありません。しかし、世界のMLCの視点に立つと、言語がより複雑になったということは言えると思います。共通語は英語ですが、フランス語、スペイン語、韓国語、ヒンズー語、日本語、そして、その他の各地区の言語と関連する言語が増えました。会議の進行が一段と複雑になりました。

さて、表題の E PLURIBUS UNUM はアメリカ合衆国の国璽です。「多くから作られたひとつ」という意味で、まさにアメリカを象徴する言葉です。25セント貨をよく見ると刻印されています。

今後のMLCは同様の状態になりそうです。共通する理念はマリアニストですが、日常の言語はそれぞれの言語という状態がより顕著になりました

た。今までと変わらないという考えもありますが、私たちのカトリックとしての立場を理解するならば、戦争、地球の温暖化（沸騰化という意見もあるようです）、経済格差、イデオロギーの対立など、決して看過してよい問題ではないと思います。個人の信仰が直接世界の問題につながるわけではありませんが、教会を通して信徒マリアニストの考えを伝えようとする努力は必要です。そのためにも、世界の信徒マリアニストを理解しておくことは必要なことなので、各地区の信徒マリアニストの現状（奉獻している信徒）を表にまとめておきます。決して大きな影響力を持つ存在とはなりません、教会を通しての私たちの活動は今後も着実に続けなければならないと思います。

【地 区】	【信徒マリアニストの数】
〔ヨーロッパ〕	1 6 7 0 人
〔北アメリカ〕	1 1 1 4 人
〔ラテン・アメリカ〕	1 1 7 0 人
〔アフリカ〕	8 9 5 人
〔アジア〕	3 8 6 人
〔合計〕	5 2 3 5 人

マリアニスト家族世界評議会

信徒マリアニスト共同体（本部：サラゴサ、スペイン）

ヨーロッパ信徒マリアニスト共同体（本部：マドリード、スペイン）
構成国：スペイン、ポルトガル、フランス、イタリア、オーストラリア、ポーランド、スイス、ルクセンブルグ

北アメリカ信徒マリアニスト共同体（ディトン、オハイオ州）
構成国：アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド

南アメリカ信徒マリアニスト共同体（本部：リマ、ペルー）
構成国：ペルー、ブラジル、アルゼンチン、コロンビア、キューバ

アフリカ信徒マリアニスト共同体（本部：アビジャン、コートジボワール）
構成国：コートジボワール、ケニア、ガーナ、ナイジェリア、レント

アジア信徒マリアニスト共同体（本部：東京）
構成国：インド、韓国、日本

日本信徒マリアニスト共同体（本部：東京）



1. イスラエル巡礼の思い出

今年の2023年3月21～31日(11日間)、春休みを利用して聖週間の準備も兼ねての巡礼でした。マリアニスト家族からは、SMの2名、MLCからの3名、暁星学園卒業生2名(内1名は小学校教員)と晃華学園の教員、ポルトガル語ミサ参加者1名、更に沖縄・長崎・東京の信者7名と添乗員の総勢17名でした。

自然の草花の一番美しい季節、好天气に恵まれ、イスラエルを北から南に縦断する旅でした。ガリラヤのナザレの町を皮切りに、イエスが足を運ばれ沢山の奇蹟物語と関係のあるチベリア湖(ガリラヤ湖)、山上の説教の真福八端教会、ペトロの首位権の水辺の教会、パンと魚の増加の奇蹟教会、カファルナウム(ペトロの町)マグダラ遺跡の発掘跡等、聖書にゆかりのある場所を訪れる度に、今にもイエスの生の声が聞こえてきそうでした。すべて「百聞は一見に如かず」です。聖書の背景が見えてきます。バスはガリラヤ湖を後に、ヨルダン川沿いに南下し、イエスの洗礼の場所を過ぎると車窓の景色が、緑の平野から茶褐色の岩砂漠に一変し、ユダ山地の岩肌が迫ります。イエスの誘惑の山とザケオの回心の町エリコ見て、一気に水面下400メートルの谷底の高塩度の死海まで南下し、浮遊体験をした後、ユダヤ戦史の悲劇の舞台マサダの砦を見学し、国道90号線をバックして標高800メートルにある本命のエルサレムへの文字通りの都上りに入りました。ベトレヘム(ご誕生)、エン・カレム(聖母のエリザベトご訪問)の郊外の聖地も大切ですが、イエスの死と復活の出来事にまつわる旧約聖書の預言が完璧に完結したのは、こ



◀真福八端の教会
「幸いなるかな……」
イエス様の福音の中心のメッセージ
▼カファルナウム(ペトロの家)の広場
12使徒の頭、聖ペトロ銅像の前で



こエルサレムです。ベトレヘムの馬小屋での誕生に始まり、ゴルゴタの丘で死んだイエスの一生は、イスラエルの歴史を変えただけでなく、世界中の全人類の運命を巻き込んで粛々と進行している唯一の救済史であることに気づいた時、言い尽くしがたい難い感動を覚えました。そしてイエス自身と使徒たちの命がけの宣教の足跡を辿るにつれて、一人の人間の行動が引き起こす歴史の重みとその責任性を追体験させられました。改めて「イエスは、救い主キリストです」という事実をすべての人に公言し、一生賭けて宣教する修道者の生き方に意味があるという確信を自分ものにできた聖地巡礼でした。

III. 日本地区の夏休みと2学期の主な行事

行 事 事 項	日 時	開 催 場 所	備 考
日本地区会議	8/6-7	シャミナード修道院	地区本部員・代議員
年の大黙想会	8/9-15	シャミナード修道院	全会員
地区集会	8/16	シャミナード修道院	全会員
世界マリアニスト家族 祈りの日	10/15	マリアニスト家族各共同体	米国：デイトン修道院のルルド
宗教部・宗教科 研修会	10/18-19	シャミナード修道院	各姉妹校
召命司牧養成 担当者会議	10/20-21	シャミナード修道院	各修道院
マリアニスト 家族慰霊祭	11/12	シャミナード修道院	
マリアニスト スクール 連盟総会・研修会	11/15-17	札幌(北海道)	各姉妹校で 責任分担

II. マリア会第36回 総会準備への各修道院の取り組み

「マリアニスト家族の文脈の中で若者とともに、また若者のために行う司牧活動について」というタイトルでの来年の総会に向けて、世界中の各管区・地区・修道院さらに共同体で共同研究と準備が進められています。

1. 各修道院と共同体において、与えられた質問内容を研究し検討し、
2. 世界・教会そして特に若者たちについて新しい目標と活動手段を構築すべく、
3. 3段階に分けて、①2023年2月～9月まで、②2023年9月～2024年4月、③2024年4月～5月まで、段階(フェーズ)とステップを踏んで、シノダリティの歩みを実践していきます。

私達アリانسの会員は、表面的にキリスト者だと他人に分かる物を身に着けることは許されず、社会の中で一社会人としてイエスの様に愛し、仕え、出会う全ての人の喜怒哀楽を共にしていく、在俗会員です。

一見隠れキリシタンのような存在ですが、信仰生活は何も自由なく送ってきた私にとり、この度の新型コロナウイルスの感染拡大は大きな試練となりました。所属教会の神父様はミサの説教の中で、「皆さんは隠れキリシタンになってしまいました、このような状態が長くないことを心から願います」と言われました。潜伏キリシタンの人達は250年もの長い間、信仰を捨てれば命の危険を感じずに生活出来たにも関わらず、死と向かい合わせの状態で信仰を守り続けました。それはキリスト教の信仰が、死を超えて自分の身も心も魂も輝かせる永遠の命へと繋がらせてくれることを確信していたからでしょう。私達マリ

アニストもキリスト者でなければ、マリアニストでなければ、コロナ下の行動制限で満たされない気持ちはあっても、ミサに参加出来ない辛さや共に集えない辛さを感じたり、その為に翻弄されることもなかったでしょう。それでもキリスト者、マリアニストとの霊性とその絆にこだわり続けたのは、信仰生活やマリアニストとしての生き方が、自分の命と人生を最も輝かせることを確信しているからではないでしょうか。

6月のマリアニスト家族の集いで、困難な日々を乗り越えてマリアニストとして喜びのうちに生きる多くの人に再会し、私は改めてマリアニストとして生きる喜びを心から感じました。



半年ほど前からMLCの評議会に参加させていただき、見て感じたMLCの課題と展望について述べてみたいと思います。まず、「会員の減少と高齢化」があります。私たちが歳をとっていくことは当然のことですが、若い人たちの新規加入が少ないことが会員減少の主な原因のように思われます。若い方たちにとって参加してみたいような魅力あるMLCとはどんなもののでしょうか？そして、私たちの創立者のカリスマに耳を傾ける若い方たちはどこにいるのでしょうか？

この課題を克服するには、私たちMLCが自らを変革し、行動を起こしていくことが鍵であるように思えるのです。



▲ 2023年7月2日のMLC総会



▲ 2023年6月11日新しい暁星聖堂での家族の集いのミサ（奉獻20年の6名と共に）

MLCの秋の予定

- 9月10日(日)日本MLC 家族評議会(シャミナード修道院)
- 10月15日(日)マリアニスト世界祈りの日
- 11月1-2日MLC インターナショナルチーム会議(ローマ)
- 11月3-5日マリアニスト家族世界評議会(ローマ)
- 11月12日(日)マリアニスト慰霊祭

お詫びと訂正

前号(142号)3ページ、MLC共同体に誤りがありました。
6. ローザミスティカの代表：増田明子→加藤くにえ
9. 長崎ソダリティの場所：長崎海星学院→長崎海星学園に訂正致します。

簡単ベトナム語



1. Xin Chào. こんにちは!
2. Đạo Nay Sao Rồi? 最近はどうですか?
3. Giữ Gin Sức Khỏe Nhé. お元気で!
4. Có Gì Cứ Cho Tôi Biết. 何かあったら、知らせて下さい。
5. Cầu Nguyện Cho Tôi Với Nhé. どうぞお祈り下さい。

何か象徴的な出来事

Sr. 小林幾久子



ちょうど2か月前の7月3日(月)の夕方、いつものように私たちは、修道院の聖堂で晩の祈りをしていました。そのさなか、地を揺るがすかのような轟音に見舞われましたが、皆一瞬、何が起こったのかと現実を把握することができませんでした。

祈りが終わって、前を見ますと、いつも壁に掛けられていた大きな十字架が祭壇の下に横たわっていました。あの轟音は十字架が壁面から落下した時の音だったのだと理解できましたが、落下する瞬間を見た者は誰もいませんでした。十字架は非常に重く、そこに磔られたイエスには傷ひとつなく、美しい姿をしていました。

それから数時間後、日付が変わって間もない頃、夜の闇の中に突如、天地を揺るがすような激しい雷鳴と稲光が長い間続きました。私はおびえて、開け放した自室の窓を閉

めに近づくこともできずに、シーツを頭からすっぽりかぶって、「主よ、助けてください!」と繰り返すばかりでした。

翌日、大禍なく新しい朝を迎えることができました。

十字架上のイエスは静かに横たわっていました。

ふと十字架が掛かっていた壁面に目をやると、すすけた十字架の輪郭が、あたかも、「わたしは復活した!」と両手を広げているイエスを映し出しているかに見えました。

そうか、イエスは復活して、これからは新しい在り方で私たちと共にいてくださるのだ…。

町田修道院は、1986年3月、修練院として建てられ、それから30余年、丁度、この世におけるイエスの生涯と重なる年月を過ごし、その間、若い姉妹たちを育てる使命を果たしてきました。

父である神は、この出来事を通して、復活されたイエスと母マリアと共に、これからは、新しい在り方を通して、マリアニストの使命を果たしていく時が来たことを私たちに告げてくださったのかもしれないと、そんな気がしています。

FMI ニュース

いくつかのニュースをお知らせします。

①有期誓願者の Sr. タムと Sr. リェンは、
勉学のため、7月9日(日)ローマへ出発しました。2人が健康に恵まれ、神の力と導きに支えられて、ローマでの年月が有意義な期間となりますように…。

②ノビスのマイさんの日本での実習

ベトナムで修練期を過ごしているマイさんは、9月20日、2年ノビスになるに伴って、使徒的実習を日本ですることになりました。

期間：2023年10月～2024年4月上旬の予定。
実り豊かな実習となりますように。

③有期誓願者の Sr. トゥオンが、終生誓願の恵みを受けることになりました。

誓願式

日時：12月3日(日) 14:00

場所：町田修道院

司式：市瀬 幸一師 (マリア会地区長)

④2024年、終生誓願準備プログラム

コロナで中断されていた終生誓願準備プログラムが再開されることになり、Sr. マイ、Sr. ライ、Sr. トゥオンの3人が参加することになりました。

期間：2024年1月12日～4月5日

場所：ローマとアジャン



⑤ベトナムにおける養成と使徒職の家

かねてより、ベトナムにおける養成の家と使徒職のための場の必要が叫ばれていましたが、この度、6月24日、養成の家の起工式が THANH XUAN の地で行われました。

⑥大黙想

7月20日(木)夕～28日(金)朝

指導：アントニオ武井神父様 (サレジオ会)

テーマ：「今までの自分を振り返り、神に向き合おう。」

場所：町田黙想の家

■発行：日本マリアニスト家族評議会

問い合わせメール：marianist.japan@gmail.com